

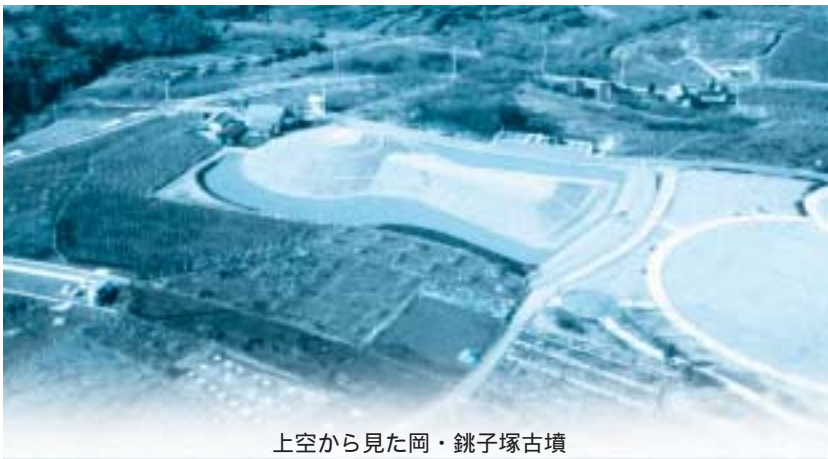
笛吹市探訪

笛吹市の史跡②

岡・銚子塚古墳(八代町)

今回は、八代町にある岡・銚子塚古墳(おか・ちょうじづかこふん)を紹介します。

岡・銚子塚古墳は、通称「銚子ヶ原



上空から見た岡・銚子塚古墳

(ちょうじがはら)と呼ばれる丘陵の上であり、山梨県の史跡に指定されています。

この古墳では、これまでに2度の発掘が行われました。最初の発掘は、江戸時代の宝暦13(1763)年に行われており、銅鏡(どうきょう)、3面のほかに、鉄斧(てつぷ)、鉄剣、鉄鏃(てつぞく)、勾玉(まがたま)などの遺物が出土したという記録があります。

ただ、これらの出土遺物は、残念ながら現在では行方が分からなくなっており、詳しいことは不明です。

しかし、3面出土した銅鏡のうち、2面については、山梨県立博物館が所蔵している「甲州文庫」の中に、拓本(木・石・器物などに刻まれた文字や文様を、紙に写し取ったもの)が保存されており、直径約23cmの鏡と直径約20cmの鏡であることが分かっています。

二度目の発掘は、平成3年12月から平成5年7月にかけて行われ、古墳を整備するための発掘調査をすることが目的でした。

この調査によって、4世紀後半に造られた前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)の周囲に、濠(ぼり)が一重巡



発掘調査で見つかった古墳の葺石

っていることが明らかになりました。

また、古墳の総長は、この濠を含めると105mもあり、市内で最も古く、最も大きな古墳といえます。

墳丘(ふんきゅう)には、段築(だんちく)という幅約80cmの平坦な面があり、墳丘の斜面全体が、葺石(ふきいし)で覆われていたことも確認されました。さらに、墳輪(はにわ)の破片が多量に出土したことから、墳丘の上に墳輪が樹立されていたことも分かりました。

遺骸(いがい)は、副葬品と一緒に粘土で包んだ木棺(もつかん)に入れられ、後円部の墳頂(ふんちよう)中央付近に埋葬されたことも明らかとなりました。この調査では、副葬品とし



古墳から見た甲府盆地の眺望

て鉄鏃や鉄刀(てつとう)、鉄剣が見つかっています。

今回紹介した岡・銚子塚古墳は、「八代ふるさと公園」の一角にあります。この公園は、甲府盆地と南アルプス、八ヶ岳、奥秩父などの山々が一望できる、素晴らしい眺望の元にあります。ぜひ、足を運んでみてください。

そして、目の前に広がる眺望を楽しみながら、古代のロマンにひたってみてはいかがでしょうか。